

平成30年度下野市行政評価市民評価 【事業別委員個別評価集計結果】

評価対象事業一覧

No.	部 名	所管課名	事 務 事 業 名
1	総合政策部	総合政策課	しもつけ・未来・プロモーション事業
2			公共施設マネジメント推進事業
3	市民生活部	環境課	不法投棄物収集運搬業務委託事業
4			環境基本計画推進事業
5	健康福祉部	社会福祉課	社会福祉協議会育成事業
6		高齢増進課	生活支援体制整備事業費
7	産業振興部	商工観光課	天平の丘公園周辺施設整備事業
8	建設水道部	都市計画課	三王山ふれあい公園管理事業
9	教育委員会	学校教育課	児童生徒英語教育推進事業
10		生涯学習文化課	文化振興事業

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 1

事務事業名	しもつけ・未来・プロモーション事業	所管部課	総合政策部	総合政策課
総合評価	見直し実施	類型区分	I	

	内部評価	委員評価	
必要性	B	A	2
		B	4
		C	0
緊急性	C	A	2
		B	3
		C	1
効率性	B	A	0
		B	4
		C	2

		委員評価	
内部評価について	妥当である	0	
	おおむね妥当である	5	
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	1

評価意見	【おおむね妥当である】
	<p>➤ 分かりやすくアニメ活用も必要とは思いますが、高齢化もあり、価値観も考慮し、幅広い視野での提案も含めていただければとも感じます。</p> <p>➤ 正直アニメなどの効果は分からないが、精力的に活動されている。</p> <p>➤ 下野市の良いところ、アピールの仕方など、子どもたちも含め多くの方からアイデアを募集してみてもいいのではないかと。</p> <p>➤ アニメや動画を利用したプロモーションは、時代にマッチしたものと思われそうですが、その費用対効果は検討の余地ありと思います。下野市の知名度向上のために、幅広くPRできる媒体を常に意識して、事業を展開してください。</p> <p>➤ 2年間行政改革推進委員会で初めてのC判定である。緊急性についてC判定と厳しい評価をしたことは評価できる。</p> <p>➤ 下野市を知ってもらうためのシティプロモーションとして、YouTube動画やご当地アニメーションを活用しての情報発信であるが、若者世代に特化した情報発信のように感じられる。全国どこの市町村でも同じように若者世代を狙っている。全世代を狙ったものでも良いのではないかと。</p> <p>➤ 「知ってもらう、来てもらう、住んでもらう」ということのプロモーションであるが、全国すべての市町村が同じような活動をし、人を奪い合っている。一方、全国的な人口減少は止まらない。情報発信も必要であるが、足元をもっと魅力的な下野市にする必要があるのではないかと。自治医科大学の知的資源を活用するための連携強化策を講じるとか、自治会活動に介入して、ワクワクする下野市民づくりを目指すことも必要ではないかと。</p>
	【妥当ではない(内部評価が低すぎるため)】
	<p>➤ 下野市の発信力の試されている事業である。プロモートにとって一番重要な点は「熱意」である。他市のプロ事業の真似や他事業の連携に依存した事業にはその熱意が感じられない。市民が、「どんなまち、どんなひと、どんなしごと」を望んでいるのか、徹底的な調査研究が急務である。</p> <p>アンケート調査の中から「必要性・緊急性・効率性」が見えてくる。このままではいたずらに税金と時間を浪費するのみと考える。</p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 2

事務事業名	公共施設マネジメント推進事業	所管部課	総合政策部	総合政策課
総合評価	継続実施	類型区分	I	

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	6
		B	0
		C	0
緊急性	A	A	5
		B	1
		C	0
効率性	A	A	2
		B	3
		C	1

			委員評価
内部評価について	妥当である		2
	おおむね妥当である		3
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	1
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➤ 公共施設の維持管理は、長期的な計画に基づくものであり、安易に決めることはできませんが、今後の計画については、旧町に縛られることなく、下野市としての方向性を明確に打ち出してください。</p> <p>➤ 下野市の公共施設の現状と今後の在り方ということで、3年前、公共施設マネジメント検討委員会が開催され、公共施設等総合管理計画が策定された。公共施設の老朽化が進行しているが、同時に少子高齢化に伴う社会保障経費も年々急速に増加している。限られた予算の中で、今後30年間の公共施設、ハコモノとインフラとどう維持管理していくかというもので、重要でかつ必要な事業であると理解した。</p> <p>➤ 市民にとって非常に重要な計画にも関わらず、概要版ですら相当な知識がないと、その言わんとするところが、多くの市民にとって分かりづらいものになっている。第8回下野市公共施設マネジメント検討委員会で、委員長より提案があった「漫画でわかりやすく問題提起をする方法」というのも一案であるように思える。「マンガでわかる長野市公共施設等総合管理計画」や「武蔵野市わたしたちで考える公共施設の未来」などの先進事例もあるので、ご一考を願いたい。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➤ 幅広い事業の展開に行政として取り組んでおられますが、しかしながら、目の前の環境の整備等にも、バランスの取れた形での事業展開をしていただきたい。というのも、地域によっては、まだまだ通学路や生活路の整備が遅れており、雨水路の問題については、手付かずの地域があり、地域住民にとって一番重要なところですので、公共施設マネジメント推進事業については大いに賛成であります。地域住民といたしましては、やはり生活の基盤を基本としていただきたいところです。</p> <p>➤ 公共施設の安全性の確立は重要である。</p> <p>➤ 統廃合後、環境にやさしい企業への貸出しなども良いのではないかと。</p>
	【妥当ではない(内部評価が高すぎるため)】
<p>➤ 公共施設は、その市の「顔」である。新庁舎も下野市の公共施設であるが、これは「顔」ではなく、「眼鏡」である。どんなに立派な眼鏡をかけていても、顔が見えなければ公共施設とは言えない。</p> <p>➤ マネジメントシステム導入に際しては、大胆なビジョンを下野市民に示すべきでしょう。そこで示されたものによってこの事業の「効率性」は正しく評価されるはずだからである。</p>	

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 3

事務事業名	不法投棄物収集運搬業務委託事業	所管部課	市民生活部	環境課
総合評価	見直し実施	類型区分	Ⅱ	

	内部評価	委員評価	
必要性	B	A	6
		B	2
		C	0
緊急性	B	A	4
		B	3
		C	1
効率性	A	A	6
		B	1
		C	1

			委員評価
内部評価について	妥当である		1
	おおむね妥当である		3
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	3
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	1
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【おおむね妥当である】
	<p>➢他市町と比べて、比較的配慮が為されているように感じます。不法投棄を完全に排除することはたいへん困難であると思いますので、PR等を含む多方面からのアクションにより継続していただきたい。</p> <p>➢不法投棄環境美化づくりに努力している。</p> <p>➢監視カメラの増設、イベント等に不法投棄物などのパネルを提示し、重要性を知ってもらう取組みなどが必要。</p> <p>➢不法投棄を放置しておく、さらに不法投棄がなされるので、継続的に早期発見・撤去、管理指導等は必要である。</p> <p>➢ボランティア団体や不法投棄監視員による対応、監視カメラの設置による不法投棄の防止など効率的な対応策が施されており、百万円程度の手数料等で良く運営されている。</p> <p>➢さらに対策を講じるとすれば、不法投棄の現状を広く市民に公民館講座などを利用して周知徹底すべきではないか。また、市内の児童・生徒にも教育する機会を設けて、継続的に教育していくべきである。</p> <p>➢周知されるだけでなく、イベントの立ち上げも必要である。すでに姿川のクリーン作戦で行われているが、道路についても老若男女の下野市民が参加するイベントの立ち上げが必要である。過去の交通事故に懲りて中止されているが再考を。</p>
	【やや妥当ではない(内部評価が低すぎるため)】
	<p>➢不法投棄された物を撤去することも大きな仕事と思いますが、出さないようにするための啓蒙活動も大切だと思います。</p> <p>➢継続的に必要不可欠な事業であると考えます。「見直し実施」としていますが、何を見直すのでしょうか？市民の大半が必要としていると思いますので、他部署とも連携して事業を進めてください。</p>
【妥当ではない(内部評価が高すぎるため)】	
	<p>➢不法投棄は犯罪であり、司法の問題であり、行政の課題である。この事業の必要性は言うまでもない。しかし、不法投棄の処理は基本的に土地所有者の自己責任にゆだねられている以上、緊急の対応を取りづらい制度になっている。この点、緊急性は乏しいので《C》とする。監視カメラの設置は犯罪防止に有効な手段であるが、現時点でわずかに2か所(2台)であることは、その効率性に疑いが残る。</p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 4

事務事業名	環境基本計画推進事業	所管部課	市民生活部	環境課
総合評価	継続実施	類型区分	I	

	内部評価	委員評価	
必要性	B	A	5
		B	3
		C	0
緊急性	B	A	3
		B	5
		C	0
効率性	A	A	3
		B	3
		C	1

		委員評価	
内部評価について	妥当である	1	
	おおむね妥当である	7	
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【おおむね妥当である】
	<p> >環境問題は、根本的には「人」の問題だと理解する。その意味では、この事業の必要性は《A》である。また、環境問題は家庭から地球までを包括するトータル・プログラムであると考えるので、緊急性もまた《A》である。事業の効率性は、この事業の取組みへの市全体の意欲とつながっている。その意味では、効率性が良いとは言えない。 </p> <p> >環境については、各地域で、また、自治会においても何かと議題に挙がる場所であり、行政だけでなく市民・市民団体・事業者との協働による本事業の継続実施は妥当と思います。 </p> <p> >広報活動が図られている。 >小学校などで、下野市の環境についての講演等の機会が、また、父兄も一緒に参加できるような機会があればと思います。 </p> <p> >環境問題は誰もが関心のあるテーマだと思いますが、範囲が広く、具体的な取組みも数多く必要です。市民との協働で、より多くの市民の関心を引くために、環境フェアの集客や市民会議の参加者を増やす取組みを期待します。 </p> <p> >40度を超える猛暑、週ごとに上陸し各地に甚大な被害をもたらした台風、異常気象が誰もが怯えるほど年々荒々しくなり、世界各地でも被害が頻発している。そうしたことを考えると、下野市の環境を考える環境基本計画は必要である。 </p> <p> >外来生物や外来植物の除去を、親子で現状を知り、除去作業を行い、環境を考える機会づくりのイベントとして立ち上げる必要がある。このイベントを教育部局と共管で行う。親にとっても、生涯教育としての効果がある。 </p> <p> >環境問題に取り組むことは必要であるが、あまりに課題が大きく、かつ、複雑であるので、どこから取り組んでいいかわからない人が多いのが現状である。そうした中、2018/10月号の広報しもついで、環境基本計画の環境報告書を記事にしたことは評価できる。 </p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 5

事務事業名	社会福祉協議会育成事業	所管部課	健康福祉部 社会福祉課
総合評価	継続実施	類型区分	Ⅱ

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	8
		B	0
		C	0
緊急性	A	A	7
		B	1
		C	0
効率性	B	A	3
		B	5
		C	0

			委員評価
内部評価について	妥当である		3
	おおむね妥当である		4
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	1
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢市民生活の福祉分野を担う協議会の役割は大きいと思いますが、その活動内容が十分に理解されていないようなので残念です。活動内容の充実が一番だと思いますが、市民サービスの向上と平行して同会の広報活動も進め、広く市民に知れ渡るようお願いしたい。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢「地域で安心して暮らす」条件として、地域福祉事業の必要性・緊急性は言うに及ばず、その事業経費の増大を考えると、費用対効果の効率性も無視できない。その点、この事業計画の要である社会福祉協議会の運営には最大の関心が集まっている。その点で、指定管理者制度の効率的運用が期待されている。</p> <p>➢市民の要望は高く、また、行政においても何かと厳しい部分がありますが、総合的配慮も含め、継続実施は妥当と思います。</p> <p>➢高齢福祉、ボランティア活動など成果をあげている。</p> <p>➢市民に対し、協議会のアピールが必要である。(高齢福祉課・地域包括支援センターとの違いを分かるようにする。)</p>
	【やや妥当ではない(内部評価が高すぎるため)】
<p>➢栃木県高齢福祉課職員より「下野市社会福祉協議会の影が薄い」という指摘があった。これはかなり重い評価である。</p> <p>➢下野市高齢福祉課、社会福祉協議会、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターが存在し、その中で社会福祉協議会がどのような存在であるのか明確にすべきである。76年の歴史ある社会福祉協議会なのに、市民の認知度はあまりない。下野市社会福祉協議会からの情報発信として、一読で分かる冊子が必要である。</p> <p>➢2025年問題が差し迫り、地域共生社会を早急に実現しなければならないときに、育成される社会福祉協議会でいいのか。もっと自発的で主体性を持ち、自立した社会福祉協議会を目指すべきである。</p> <p>➢下野市のボランティアを束ねている社会福祉協議会としては、市民協働推進課が現在推奨している「ボランティアコーディネーション力」検定試験をスタッフ全員が受験し、スキルアップを図ることが、その存在感を高める近道に思える。</p>	

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 6

事務事業名	生活支援体制整備事業費	所管部課	健康福祉部 高齢福祉課
総合評価	継続実施	類型区分	I

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	8
		B	0
		C	0
緊急性	A	A	7
		B	1
		C	0
効率性	A	A	6
		B	2
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	6	
	おおむね妥当である	2	
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p> >高齢化が急激に進む中、スピード感をもって行われている。 >地域の中でのコミュニケーションを高めることが必要である。(昔のように、お互いに声を掛け合うことが自然にできればと思う。)※私の所では、高齢者同士、お茶会を定期的に行っている。 </p> <p> >目途とする団塊の世代が75歳以上となる2025年は、あとわずか6年後ですので、実態の把握から地域の課題を皆で共有し、高齢者も安心して暮らせる社会になって欲しいと思います。 </p> <p> >年々進む高齢化社会に向けて、本事業の役割も年々高まっていくことは間違いないと思います。これまでも様々取組みをされてきたと思いますが、今後も、さらに活動内容を充実させ、市民生活の向上を担っていただけることを期待しています。 </p> <p> >高齢化率も24%を超え、今後ますます高齢者が増加する中で、介護予防・日常生活支援総合事業の必要性は高まるので、本市独自の事業展開は評価できる。 >市民力で支える超高齢社会に向けて、地域の自助・互助を最大限に活用するため、第1層のSC(生活支援コーディネーター)、第2層のSC、ボランティア、企業とも連携を図り、効率化を図っている点は評価できる。 >自治医科大学看護学部との協同事業で、自治会別高齢者の実態調査を平成29年に5自治会、平成30年に6自治会実施していることは大いに評価できる。自治医科大学看護学部と高齢福祉課等の職員が自治会に出かける、「現場に出前する」行動は絶大な効果を生んでいる。下野市行政改革のケーススタディにすべき事業である。 >実態調査の中で、ひと時であるが地域住民が看護学部生と笑顔で楽しそうに会話している風景を見ていると、看護学部との連携がいかに重要であるか痛感した。市民が幸せに感じるこの流れを、庁内に周知徹底を図るべきである。 </p>
	【おおむね妥当である】
	<p> >高齢者の生活支援を包括的に確保できる体制の構築の必要性は《A》である。高齢者の比率が高まる将来への施策の緊急性も《A》である。これらの必要性・緊急性を支えるものは、マンパワーであることから、「市民力」に依存する施策は今後の課題である。支援コーディネーター、高齢者サロンの役割も大きくなりつつあることから、施策に具体性が求められる。 </p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 7

事務事業名	天平の丘公園周辺施設整備事業	所管部課	産業振興部 商工観光課
総合評価	見直し実施	類型区分	Ⅱ

	内部評価	委員評価	
必要性	B	A	4
		B	3
		C	0
緊急性	B	A	3
		B	4
		C	0
効率性	B	A	0
		B	7
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	0	
	おおむね妥当である	6	
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	1
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【おおむね妥当である】
	<p>➢ 下野の歴史をより正確に後世に伝えることは大切なことであり、下野市としても、間に合わせ的な施設ではなく、後世に残る内容の濃い施設を残していただきたい。</p> <p>➢ 1年中集客を見込める取組みと評価する。</p> <p>➢ 公園遊具の設置の隣に、シルバー世代も集まれる場所があると良い。(グラウンドゴルフ・パターゴルフなど)</p> <p>➢ 他と連携して交通アクセスも考えていくと良い。</p> <p>➢ 市民の憩いの場として、当市の貴重な観光資源として、必要性の高い事業と考えます。費用対効果も十分に検討したうえで、魅力ある公園整備を期待します。</p> <p>➢ そもそも論ですが、なぜ商工観光課が天平の丘公園整備の公園整備を担当するのか理解に苦しむ。平成30年度下野市グループ編成・事務分担表において、商工観光課の主な事業内容にその記載はない。説明はあったが疑問は払拭されない。</p> <p>➢ 資料によると、平成30年度に再整備基本構想策定となっているが、市民を巻き込んだ基本構想委員会などを立ち上げるべきである。協働のまちづくりを目指すなら、基本構想の段階から市民参加で検討すべきである。</p> <p>➢ 歴史と平地林保存に重きがおかれた公園整備であったため、園内は薄暗い。間伐予算の4,536千円を4年間毎年計上しているが、枯れ木の除去と僅かな間伐しかできず、明るい園地にはならない。本気で魅力ある公園を目指すならもっと予算を集中的に計上し、効果的な整備を行うべきである。説明の中で宝くじの資金を導入という説明もあったが、他にも導入資金がないか検討すべきである。</p>
	【やや妥当ではない(内部評価が低すぎるため)】
	<p>➢ この事業計画には、総合的なビジョンが見えて来ない。必要性・緊急性をともに《A》評価としたのは、伝統的な花まつりのイベントのみならず、この公園の潜在的な可能性に期待するからである。</p> <p>事業の内容が「間伐」と「遊具」のみでは、単なる施設整備に過ぎないので、その他の事業との連携・タイアップなどを促進して欲しい。</p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 8

事務事業名	三王山ふれあい公園管理事業	所管部課	建設水道部 都市計画課
総合評価	継続実施	類型区分	I

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	8
		B	0
		C	0
緊急性	A	A	6
		B	2
		C	0
効率性	A	A	5
		B	3
		C	0

			委員評価
内部評価について	妥当である		4
	おおむね妥当である		4
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

	<p>【妥当である】</p> <p>➢天平の丘公園整備と重なる部分もたくさんありますが、限りある財源を考慮し、行政としてのしっかりとした財政基盤のうえで、後世に継続できる、時代に褪せない公園整備を期待します。</p> <p>➢子どもにとっても、親にとっても、近くに魅力ある公園があることは大切だと思います。真岡市の公園が良いとの評判を聞きますので、ぜひ調査して欲しいと思います。評判が良くなり、市外からの利用者も増えると思います。また、高齢者の健康づくりの場としても期待されますので、委員会で意見の出された日陰がないという問題の解決についても、緊急性があると思います。</p>
	<p>【おおむね妥当である】</p> <p>➢ヒアリング及び資料によれば、この事業の必要性が高いと言える。委員の中にも本公園を利用した者もいて、概ね好評であった。ただし、公園として整備すべき部分も多いと認められるため、効率性については《B》とした。</p> <p>➢市民の憩いの場として、また、市外からの集客力が課題。緑を増やし、子どもから高齢者まで幅広い世代が集えるよう整備し、情報発信していく。</p> <p>➢緑環境の整備や活力ある地域社会を維持していくうえでは必要性は高いが、廃止した場合のデメリットは高いとは言えないと史料する。</p> <p>➢民間活力の導入については、積極的に行うべきであり、効率性は高いと思う。</p> <p>➢市内外に大いにPRし、観光資源として大いに活用すべきである。</p> <p>➢指定管理者による公園管理を行うことで、維持管理費の縮減、民間企業のノウハウの活用を図り、道の駅しもつけ・ふれあい館との連携を図っていることは評価できる。</p> <p>➢利用した印象としては、公園全体として有機的に施設が計画・設置されておらず、統一感に欠けている。修正するために整備理念を再確認する必要がある。</p> <p>➢子育て環境の充実や高齢者の健康づくりの場としての活用を目指して整備したようであるが、樹木を伐採し過ぎたことにより緑陰が少なく、今年のような猛暑の夏になれば、子どもにも高齢者にもやさしくない。あずまや等の設置が必要である。</p> <p>➢今後とも集客の増加、魅力度アップを目指して、相当な手直しも必要になってくると思われるが、指定管理者の(株)道の駅しもつけに年度当初に「管理方針」を提出させる仕組みづくりも必要である。</p>
評価意見	

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 9

事務事業名	児童生徒英語教育推進事業	所管部課	教育委員会	学校教育課
総合評価	継続実施	類型区分	I	

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	7
		B	0
		C	0
緊急性	A	A	7
		B	0
		C	0
効率性	A	A	4
		B	3
		C	0

			委員評価
内部評価について	妥当である		3
	おおむね妥当である		4
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢早い段階より英語に親しむことはとても重要である。</p> <p>➢留学経験のある学生・海外生活経験者とのふれあいや体験談、交流などがあると良い。</p> <p>➢英語教育の必要性は非常に高く、より充実した体制整備が必要だと思います。私自身は、教育の現場にまったく携わっていない立場なので、具体的な内容を提案することはできませんが、現場の教職員の方々のモチベーションを維持高揚できる施策を期待します。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢英語教育の推進は、全国的に見れば30年ほど前から緊急課題として挙げられて来た。この課題に応えるポイントは「教員」である。決して「機材」ではない。その意味で、ALT、JTEの充実は緊急・不可欠である。しかし、それだけがすべてではない。市役所職員のレベルアップ、ボトムアップへの施策(庁内研修・内地研修・外国研修)も忘れてはならない。また、県内の留学生の活用も緊急に検討すべき課題である。</p> <p>➢対外的なことを含めて必要性があり、当然のことで、行政に期待するところです。</p> <p>➢中・高・大と計10年も教育されても、会話もできない英語教育が日本では長い間行われてきた。国際化が進行し、英語での社内会議を行うことが当然になりつつある時代状況の中で、ALTによる英語教育は大いに推進すべきである。</p> <p>➢小中一貫教育の中で平成31年度から中学3年生有志による英語プレゼンテーション大会を企画しているようだが、中学3年生有志だけでなく2年生でも1年生でも参加させるべきである。</p> <p>➢そうした中で、細谷小だけがALTによる国際理解教育イベントが行われ、他の小学校では英語イベントとなっている。同じ下野市内の小学校で異なる英語教育が行われることに問題はないのか。地元の意向で細谷小を小規模特認校として残したようだが、その判断に教育のプロとしてのプライドが感じられない。説明の中でもその弊害が予想できたので、早急に是正する方向に舵をきるべきである。</p>

平成30年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

No. 10

事務事業名	文化振興事業	所管部課	教育委員会 生涯学習文化課
総合評価	継続実施	類型区分	I

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	6
		B	1
		C	0
緊急性	A	A	3
		B	4
		C	0
効率性	A	A	4
		B	2
		C	1

			委員評価
内部評価について	妥当である		2
	おおむね妥当である		4
	やや妥当ではない	内部評価が高すぎるため	1
		内部評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	内部評価が高すぎるため	0
		内部評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢芸術文化活動は、心の豊かさや生きがいを育む事業であり、市民生活の向上の一助となるものと考えます。子どもからお年寄りまで多くの市民が参加できる事業となることを期待します。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢市民間で事業が活発に行われていると評価する。 ➢小中学生が実際に足を運んで、本物と触れ合う機会があっても良いのではないかな。 ➢文化活動自体が活動している当事者だけの自己満足になっていないか。「文化活動は人々に役に立っている筈だ」という常識、それを検証するシステムも必要である。 ➢会長からの事業に裁量の余地はあるのかという質問に、ほとんど裁量の余地はないという回答であった。わずかに内容については、変更も可能という苦しい説明しかなかった。 ➢個別の事業も従来の流れの中で実施されているし、ほとんど変化なく裁量の余地のないものになっている。また、会員の高齢化に伴い、活動もジリ貧状況になっているという説明であった。そうであるならば、何らかの工夫が必要である。 ➢展示や発表等が主であることに問題があるような気がする。会員以外の市民を巻き込むような工夫を講じるべきである。TVで評判のプレバトでは、俳句や生け花が見直され、わかり易くかつ魅力的なものになり、高い視聴率を上げている。この取り組みなどは、参考になるのではないかな。</p>
【やや妥当ではない(内部評価が高すぎるため)】	
	<p>➢私は、文化(カルチャー)とは「議論」だと考えている。この文化振興事業には議論の跡がほとんど見られない。「ソフト事業」であり、「裁量あり」の事業であって、かつ、議論をもっとも重要視しなければならない事業であるので、従来のルーチン化、固定化されている事業内容を精査し、切るべきところは切り、足すべきところは足す、という断固たる姿勢を示して欲しい。</p>